1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	0171300171		
法人名	医療法人社団 翔仁会		
事業所名	グループホーム 雪ぼうし		
所在地	北広島市輪厚704-31 (電 話) 011-377-3914		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価確定日	平成19年10月9日

【情報提供票より】 (19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 5人, 非常勤 10人, 常勤換算	13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	10 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.05 歳	最低 68 歳	最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団翔仁会 輪厚三愛病院
協力医療機関名	医療法人社団翔仁会 介護老人保健施設 エスポワール北広島

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地が広く緑に囲まれた自然豊かなグループホームである。施設内は全体に広い作りで、明るく清潔である。浴室には、全身シャワーの設備があり、エレベーターが設置され、バリアフリーが行き届いている。職員の入居者への言葉掛けや親切で親しみやすく利用者の表情も明るい。隣接する医療機関との連携体制が整っており、家族の安心が得られている。地域とのつながりが深まるよう力を入れており、地域の各種行事に積極的に参加している。人づくりの面でも職員全員に研修参加の機会が多く与えられている。市内のほかの介護事業者との情報交換も活発であり、お互いのサービス向上に役立っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) トイレなどの目印を見やすくしたり、市との協力・連携の強化など改善が実施されている。地域で行なわれる認知症のセミナーの講師を行なうなど、十分な取り組みが見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 昨年度の評価をもとに改善項目に取り組み、成果を上げている。自己評価にも全員で話し合い取り組んでいる。自己評価にあたってガイドブックを参考にし理解を深めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヵ月に1回開催し、行事参加、外部評価への取り組み、緊急時の協力などをテーマに活発に意見交換している。会議の議事録も作成されている。市の地区支援センターにおいて、介護関連施設の交流が活発に行なわれており、市や社会福祉協議会の担当者が参加し、情報交換を行なっている。当ホームとして支援センターが行なうセミナーの講師などを積極的に引き受けている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 手紙と金銭出納報告は毎月家族に送付している。また、3ヵ月に1回「ホームだより」を作成し送付している。来訪時の報告、電話での報告を行なっている。また、運営推進会議に家族に参加してもらって意見を頂いている。ホーム内に「意見箱」を設置している。苦情受付について、家族に十分な説明を行なっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、集会や行事に参加している。地域の方に運営推進会議にも参加して頂いている。母体である医療法人のお祭りに地域の方が参加しており、グループホームも一緒に参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中の「生活空間や人間関係のつながりを広げる」の部分に地域の中で暮らして行く思いを込めており、入居者が地域と係わりを深めるよう努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有空間やスタッフルームに理念が掲げられ、毎朝の申し送り時に復唱している。会議時も理念に沿って具体的なケアに取り組むよう意思統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、集会や行事に参加している。7月には、開設3周年記念事業を実施し、運営推進会議の委員で地域のボランティア会長や、心配事相談員、市の高齢者支援センターの職員や、近くのグループホームの方にも参加して頂いた。母体である医療法人のお祭りに地域の方が参加しており、グループホームも一緒に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価をもとに改善項目に取り組み、成果を上げている。自己評価にも全員で話し合い、取り組んでいる。自己評価に当たってガイドブックを参考にし理解を深めている。		

北広島市 グループホーム 雪ぼうし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1回に開催し、行事参加、外部評価への取り組み、緊急時の協力などをテーマに活発に意見交換している。会議の議事録も作成されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地区支援センターにおいて介護関連施設の交流が活発に行われており、市や社会福祉協議会の担当者が参加し、情報交換を行なっている。ホームとして支援センターが行なうセミナーの講師などを積極的に引き受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手紙と金銭出納報告は、毎月家族に送付している。また、3ヵ月に1回ホームだよりを作成し送付している。来訪時の報告、電話での報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族に参加して頂き意見を頂いている。ホーム内に意見箱を設置している。苦情受付について家族に十分な説明を行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代を極力少なくし、交代がある場合は入居者がダメージを受けないようスムーズに引き継ぎを行なっている。過去に問題となったケースはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北広島サービスネット、道央ブロック、北海道グループホーム協議会など数多くの外部研修機会にスタッフを参加させている。医療法人内の研修にも参加している。すべてのスタッフが研修機会を与えられている。研修の報告も行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム同士の交流は、ほかの地域に比べ非常に活発であり、交流会や、意見交換会が頻繁に行なわれ、職員が参加している。お互いに向上し合いサービス向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接する老健施設から入居する場合は、職員が何回か訪問し馴染みの関係を築いている。自宅からくる場合も同様に、馴染みの関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の一人ひとりのペースに合わせて活発に話し掛けている。こちらが教えてもらったり、冗談を言い合ったりする対等な関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により、入居時に本人や家族の話をもとにシートを作成し、後から得た情報も追加し、蓄積している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重し、職員全体で意見交換を行ない、きめ細かい介護計画を作成し、家族には介護計画作成後、来訪時に説明したり、来所されない家族の方には、介護計画の内容を電話にて説明した後に郵送し、同意してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに介護計画を見直し、作成している。毎月1回のユニット会議、全体会議でケアプランの話し合いが持たれている。期間終了時にプランの評価を行ない、その反省をもとに次のプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者は、看護師の資格を保有しており、隣接する医療機関と緊密な連携を行なっている。隣接病院以外の病院にも通院支援を行なっている。現状はニーズが少ないが、ニーズがあればショートステイを行なう用意がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、隣接する提携医療機関の往診を受けている。そのほかの医療機関を希望する場合は、希望に応じて通院支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算指定の条件として、重度化した場合の対応方針を家族に明確に示した上で説明し、同意書を取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の特別な希望がある場合以外は、「ちゃん」付けで呼んでいない。各個人の情報は、適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、自分のペースで過ごし、会話も活発で生活を楽しんでいる。入浴や散歩なども本人の希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて調理や片付けに参加している。職員が利用者と同じテーブルで楽しく談笑しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は、清潔で広い。入浴剤を利用し、入浴を楽しめるよう工夫している。週2～3回の入浴を確保している。時間帯や入浴の長さも本人の希望に沿っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や縫い物、洗濯物たたみ、習字など利用者のできることをしてもらっている。ホームの中に利用者の手作りのカレンダーや作品が飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺や庭、畑を散歩するほか、毎月の行事で屋外での食事や外出に出掛けている。医療法人のバスを使って多人数で外出することが可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵を掛けておらず、玄関までの戸もほとんど開放している。職員が気配りすることで安全管理ができています。		

北広島市 グループホーム 雪ぼうし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を、年2回定期的に実施している。運営推進会議にて、町内の方にいざという時の協力を呼び掛けている。水や保存食の用意もできている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量を把握し記録している。バランスを考えた食事を提供しているが、カロリー計算や栄養士のチェックまではしていない。	○	栄養バランスやカロリーをチェックするため、献立や食事を写真に撮ったものを定期的に専門家である栄養士に見てもらうなどしてアドバイスを求めるのが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく広く清潔でゆったりしている。臭いや音、光も調節されており、気になることはなく、室内に段差はほとんどない。窓が広く、遠くの緑が見渡せるようになっている。一人で過ごせる場所も確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、各利用者の馴染みの家具や調度品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。